【　胆振東部地震による被災森林の復旧について　】

二　胆振東部地震による被災森林の復旧について

厚真町、安平町、むかわ町を中心に約４千３百ヘクタールの森林が崩壊した胆振東部地震が発生して２年が経過した。

この間、道では、人家や道路に近接するなど、緊急に対策が必要な個所から優先して復旧に取り組み、今後は、広範囲にわたって大規模に崩壊した森林について、植林などの実証試験の成果を踏まえながら、順次、森林の造成に取り組んでいくとのことだが、未曾有の林地崩壊からの復興は、相当の期間に及ぶ息の長い取り組みになる。

被災した森林の復旧など、昨年度の取組状況や今後の対応について、以下、何点か伺う。

（一）治山施設等の復旧について

地震で被災した治山施設などについて、復旧に向けて優先して取り組むとされた治山事業の取組の状況はどのようになっているのか。また、他の被災箇所の復旧に向けて、どう対応することになっているのか伺う。

（答弁：水産林務部林務局治山課長　飯田宇之磨）

・胆振東部地震では、厚真町を中心に治山施設などが甚大な被害を受けたことから、①被災直後に航空レーザー測量を実施し、可能な限り早期の工事着手。②現

場でのコンクリート工事を極力行わずに復旧を進めることにより工期の短縮を図り、緊急に対策が必要な個所については、国の災害復旧事業を活用し、本年度末までに工事が完了予定。

・道としては、引き続き、土砂の崩壊や流出の危険度に応じて計画的に復旧を進める考え。

（二）林道等の復旧について

広範囲にわたって崩壊した森林を復旧し林業を再生するためには、林道等の早急な整備が求められる。

幹線となる林道等の復旧を進めるとともに、被害木の整理や植林のための作業道の整備も必要になるが、これらの取組の状況はどのようになっているのか。今後、どう対応していく考えなのか、伺う。

（答弁：水産林務部森林整備課路網整備担当課長　神馬昭男）

・道では、被害の大きい林道について、国の事業を活用し、道有林内の林道の復旧と町が管理する林道の復旧の支援を行ってきたところであり、工期の短縮や路線の両面から工事を進めることにより復旧を早め、令和 3 年度までに工事を完了する予定。

・また、幹線となる林道の復旧に目途がついたことから、支線となる林道作業道

等については、植林等の実施が計画されている箇所を対象に、国の補助事業を活用して、整備に支援しているところであり、引き続き、地域のニーズを踏まえながら、計画的に整備を進めてまいる。

（三）森林の造成について

　林道等の整備が進むことで被災森林へのアクセスが可能になり、奥地の被災森林での森林造成にも取り組めるようになる。

　国内でも他に例を見ない大規模な崩壊斜面の植林や緑化等の取組について、植林などの実証試験の結果を踏まえながら進めていくとのことだが、森林造成に向けたこれまでの取組の状況はどのようになっているのか。今後、実証試験の成果をどのように活用していく考えなのか、伺う。

（答弁：水産林務部森林整備課長　土屋禎治）

・道としては、路網の整備・復旧状況や土壌、傾斜などに応じて、森林の造成を計画的に進めることが必要と考える。

・道では、森林の復旧方法を実施する試験を行うとともに、樹木の生育条件が良好な個所において、植林を進めている。

・今後は、航空レーザー測量や実証試験の成果等を活用し、土壌条件や傾斜など、条件に応じて植林が可能な区域や自然回復を期待する区域などを明らかにし、

町や森林所有者の理解と協力を得ながら、森林の造成を着実に進めてまいる。

（四）今後の取組について

震災発生から 2 年以上が経過し、この間、人家や道路等に隣接した被災森林の復旧が集中的に進み、住民が安心して暮らせる環境が戻ってきたが、一方で、地域の基幹産業である林業・木材産業を再生するためには、関係者の連携を一層強化しながら、効率的に被災森林の復旧に取組んで行く必要がある。

道では、今後、被災森林の再生と林業・木材産業の振興に向け、どのように取組んでいく考えなのか、伺う。

（答弁：水産林務部長　佐藤卓也）

・道では、国の事業を活用し、緊急対策が必要な治山施設等や被害の大きい林道から優先して復旧工事を進め、来年度までに完了する見込み。

・今後は、広範囲にわたり崩壊した森林の再生に重点的に取組むことが必要と考え、道としては、

・効率的な森林の復旧手法などを明らかにした指針を今年度中に作成。

・道有林において率先して植林などに取り組み、その成果も活用しながら、町や森林組合などの理解と協力を得て、植林の箇所などを示す実施計画を来年度中に取りまとめ、被災森林の復旧を加速。

・被害木の有効活用を進める。

など、一日も早く森林の再生と林業・木材産業の振興が図られるよう、地域の関係者と一体となって取り組んでまいる。